

石綿に関する健康管理等専門家会議

# 石綿ばく露歴把握のための手引

～石綿ばく露歴調査票を使用するに当たって～

平成18年10月

石綿に関する健康管理等専門家会議

マニュアル作成部会

# 目次

1 . はじめに	2
2 . 石綿繊維の特徴	4
3 . 石綿関連写真集	9
( 1 ) 石綿に関する作業 ( 石綿ばく露歴調査票《詳細版》 に対応)	10
( 2 ) 石綿製品 ( 石綿ばく露歴調査票《詳細版》 に対応)	55
4 . 石綿自記式簡易調査票 使い方・調査票・説明要領	64
5 . 石綿ばく露歴調査票 ( 詳細版) 使い方・調査票・記入要領・解説	73
6 . 石綿ばく露歴調査・資料集	88
( 1 ) 石綿ばく露歴調査とは	89
( 2 ) 石綿濃度とばく露量の判断	90
( 3 ) 石綿製品の歴史	95
( 4 ) 石綿ばく露の可能性のある産業と作業 ( 暫定版)	100
( 5 ) 労災認定事例	110
( 6 ) 文献集	114
( 7 ) 石綿関連事業場等 ( 一覧)	123
( 8 ) 参集委員	152

## 1 . はじめに

石綿はその特性として耐熱性・抗張性・化学的安定性に富み、断熱性・電気絶縁性も高く安価であるため、日本では戦前から石綿紡織製品、戦後は各種工業製品や建材をはじめとして広範囲に使用されてきましたが、平成7年に石綿のうち有害性の高いアモサイト(茶石綿)及びクロシドライト(青石綿)を含有するすべての製品の製造等が禁止され、さらに平成16年10月にクリソタイル(白石綿)等の石綿を含有する建材等の製造等が禁止されました。

平成17年6月、石綿を扱っていた事業場の周辺において、労働者だけでなく住民にも石綿による健康障害が発生していることが明らかになり、注目を集めることとなりました。そこで、工場周辺に居住する住民をはじめ、石綿吹付け等がなされていた建物内(住居、学校等)で長期に過ごした者、さらには石綿ばく露歴は明らかではないが不安を感じている一般住民等に対しても、石綿ばく露所見の有無を確認したり、又は石綿ばく露による疾患に罹患しているかどうかの確認を行うため、広く検査を行うことが必要との声が高まりました。しかしながら、むやみにエックス線写真やCTを撮影することは放射線障害の原因ともなりうることから、慎重に対象者を選定する必要があります。その点について「石綿に関する健康管理等専門家会議」で議論がなされ、その結果、石綿ばく露に関する問診等を行って、石綿ばく露を受けた可能性がある人と判断された人々に対して、エックス線写真あるいはCTを撮影することが望ましいとの提言がなされました。本部会は、専門家会議の提言を受け、そのような聴取り調査を行う際に、保健師や一般臨床医が使用することを想定して「石綿自記式簡易調査票」「石綿ばく露歴調査票《詳細版》」、および調査票を効率よく使用するための「石綿ばく露歴把握のための手引」を作成しました。日本では石綿関連疾患の労災認定件数が欧米各国に比べて少なく、その原因として、日本における石綿の大量使用の時期が欧米各国より遅れていることに加えて、石綿ばく露開始からおよそ40年あまりの長い潜伏期間を経てこれらの疾患が発生することから、過去の職業歴を十分に聴取できていないことが考えられます。また、実地の臨床医あるいはコ・メディカルが過去に石綿がどのような作業あるいは職場において使用されていたかについて十分知らないことも想定されています。作成にあたっては、職業性石綿ばく露の可能性のある作業と間接ばく露の可能性のある作業を見逃さないこと、ただし、ばく露の可能性が極めて少ないと思われる作業については項目を削除すること、職業性ばく露以外に家庭内ばく露や環境ばく露の可能性も見逃さないこと、各チェック項目について、何故この項目を石綿ばく露の可能性があると取り上げたのか利用者に理解できるようにすること、等を念頭に置きながら慎重な作業を行いました。

石綿ばく露歴の調査に関しては、既に専門の医療機関等において各種の調査票が使われていますが、この手引では、利用者に石綿関連作業を理解してもらうために、石綿関連の作業を熟知している専門家による石綿使用箇所あるいはその作業の写真を掲載するとともに、過去の石綿ばく露によって発生した中皮腫あるいは石綿肺がんの認定事例等に基づいた産業分類あるいは作業内容を掲載しました。なお、掲載内容を決定するに当たっては、実際に石

綿を取り扱った方からの聴取り情報、成書や国内外の論文、インターネット上の各種情報、過去の製品カタログ等から、石綿ばく露が示唆され、実際に石綿関連疾患が発生したとの報告がなされた職業や作業などを参考としました。全ての石綿に関わる作業を列挙しきれているとは限りませんので、今後、この資料の利用者・関係者等からのご指摘や更なる情報収集により修正していく予定です。また、この手引中の調査票に記載された作業については、ばく露の機会・程度・事例報告の多少（国内外の臨床症例報告、疫学調査報告等）を勘案して選定しましたが、これらの項目についても、今後、更に検討を重ねていく予定です。

また、これらの情報を1冊の手引にまとめるに当たり、編集過程で10名弱にモニターを行った結果、まず写真を先に配置し、石綿関連作業の全体のイメージをつかんでいただいた上で、調査票について説明を行い、その他の専門的な情報は資料集として最後にもってくる、という構成になりました。

この手引は相談の場で働く保健師等の皆様やエックス線検査等を行う健診機関の皆様で石綿ばく露歴の調査を詳しく行いたいという方々に活用していただくことを目的としており、さらに、石綿関連疾患を診察する可能性のある実地臨床医で石綿ばく露についての知識をより深めたいという方々にも広く活用していただくことを期待しています。「石綿自記式簡易調査票」という簡易版と、「石綿ばく露歴調査票《詳細版》」という詳細版の2種類の調査票と手引を作成しましたので、利用者や利用状況に応じて、2種類の調査票を使い分けていただければ幸いです。